

“山・湖・空”豊かな自然環境・観光資源をつなぐ地域再生計画評価委員会 結果

日 時 平成 29 年 11 月 17 日（金）午後 1 時 30 分～2 時

場 所 石岡市役所 本館 大会議室

委 員 （石岡市）佐々木 敏夫，箕輪 栄治
（土浦市）神立 義貴，岡田良一
（かすみがうら市）渡辺 泰二，横田 茂
（小美玉市）小松 修也，太田 勉

委員長・副委員長選出 佐々木委員を委員長，小松委員を副委員長に選出した。

議 事 （1）地域再生計画の評価及び計画期間の延長について

（出席委員からの主な意見）

- ・ 工事の現場において不測の事態が出ることは十分あり得る。今回の理由を聞く中では、やむを得ないものとする。
- ・ 計画期間中であるが、指標はすでに目標値を上回っており、計画の妥当性や効果が高いと考える。
- ・ ネットワークの構築には広域的な連携が重要であり、ソフト事業も含めさらに連携を行う必要がある。
- ・ 各市にとっても、広域地域としても重要な整備計画であり、継続を期待する。
- ・ 想定外の湧水など厳しい現場状況、工事方法の変更など想定外の時間を要している。
- ・ なお一層の交通環境の改善、観光施設の利用促進が期待できることから継続が望ましい。
- ・ すでに一定の効果の出現が認められ、広域のネットワークの効果が期待できる。期間延長しても整備を完成するべきと考える。
- ・ 指標の達成状況から観光産業に大きな効果があると考え。計画の評価、期間延長とも妥当と考える。
- ・ 不測の事態としてやむを得ないと考えられ、期間の延長は妥当。
- ・ 広域のネットワークを強固なものとするため計画期間の延長は妥当と考える。

（委員会としての意見）

- ・ 計画路線の整備による広域のネットワークの構築が、交流人口の増加や産業振興等に寄与し、関連事業などと連携して各指標を引き上げることにつながっていると判断できることから、計画内容は妥当である。
- ・ 湧水や軟弱地盤対策など、不測の事態により計画に遅れが出ていることは、当初からは見込むことができないやむを得ない事象と判断できる。計画の成果が指標に表れ始めていることから計画期間を延長し、ネットワークの構築を完成すべきと考える。